

平成19年度「野幌森林再生活動連絡会」を開催

平成20年1月31日（木）、江別市野幌公民館を会場に野幌国有林での森づくり参加12団体が集まって「野幌森林再生活動連絡会」を開催しました。

昨年度までの連絡会は、当センターからのお願い事項の説明や各団体との意見交換などに留まっていますが、今回はさらに、野幌プロジェクトで得られた最新の知見（動物モニタリング調査の結果、及び苗木の種子産地調査結果）を提供したり、20年度から始まる新たな森林計画を紹介するなどにより、各団体の皆さんが出席して価値があったと思っただけの連絡会を目指しました。

以下に、主な意見交換の概要を紹介します。

（団体A）現地種子や山どり苗を使い、研究的に森づくりを行っている。今年度、更新樹種を調べたところ、この2年間で樹種が入れ替わっていた。継続して観察していきたい。また、ハチ・ダニ等に対する安全のマニュアルがあれば教えて欲しい。



（事務局）下刈り作業時等におけるハチやダニに対する基本的な注意事項等についてはペーパーでも送りたい。

（団体B）外来種の庭木を林内の道路淵に植えたり、犬を連れて入林する者がいる。管理者として看板など情報周知が必要ではないのか。

（傍聴者A）そのような情報を事前に周知すれば利用者も考えると思う。

（事務局）利用者にもいろいろな考えがあり、管理サイドがなかなか一方的に押しつけることは難しい。議論の場は、必要と思っている。無断で国有地に木を植えるのは法に触れる行為ではあるが、法的にどうこう言うよりも木を植えたいという気持ちを酌んで、相手が分かるならば仲間に引き入れてみてはどうか。

（団体C）当会では西岡公園でニセアカシア駆除を行っているが、ニセアカシアは伐るより抜き取る方が、より効果がある。巻き枯らしで枯れるのは半分程度。

（団体D） 当会の造林地はニセアカシアの繁茂がひどい。ニセアカシアを排除するには、刈り払いを丹念に行うことが大事。当会では毎年2回刈りを行っている。また、エゾシカ防除のため、ネットなどを設置している。ネットは冬はずしているが、ヤチダモにかけている防除カバーは、そのままにしている。

(団体E) 今年は造林地に看板を設置したいと思っているが、金額的な事も含め、どのような看板を建てたらよいのか知りたい。また、今年度は下刈りを予定していたが、雑草の伸びが少なかったので活着状況調査に変えた

(事務局) 周辺の景観の配慮等を考えた場合、標柱のように景観を害しないものがよいのではないか。看板設置に向けて疑問点等があればいつでも連絡願いたい。金銭的な面を含め、情報は送る。

(団体F) モニタリング方針に沿って植栽木の生育調査をしてみた。樹種をバラバラに植えていることから、樹種ごとに15本というのはなかなか難しく、結果的に各樹種10本程度の調査とした。来年度も引き続きやってみたい。

(団体G) 樹木がどのくらい生長するのかを体感するために、今年度、植栽木すべてについて樹高と根元径の測定を実施した。小学生も参加し、好評だった。来年度も行いたい。

(事務局) 植栽木等の生育調査については、簡略化してもよいので、来年度は実施団体が増えることを期待する。応援が必要であればいつでも同行したい。

(団体H) 今年度は、社員とその家族約170名で植樹を実施した。来年度からは、一般市民の方を含めたやり方を考えたいと思っている。

(団体B) 野幌の森の遊歩道に落ちたタネを採って苗木を育てているが、なかなか集まらないので、今後は樹木から直接タネを採ることを認めて欲しい。また、この承認手続きは入林届だけで行うことはできないか。

(事務局) 種の採取と入林届については、第三者から見たときに奇異に映ることがないように、持ち帰って検討したい。

(団体B) 今日の連絡会は、動物撮影のことなどもあり、昨年度までの連絡会と比べて公開される情報が格段に増え、すごく分かりやすくなった。感謝したい。

(文責：石狩地域森林環境保全ふれあいセンター)